

学校研究全体計画

1 研究主題

主体的に学び、成長を実感できる子の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの往還を目指して～

2 主題設定の理由

本校の教育目標は、「ふるさとを誇りに思い、たくましく未来を拓く子の育成」である。本校児童の課題や付けたい力について昨年度末教職員で話し合い、目指す児童像を①のち「向上心をもち、運動に親しみ粘り強くチャレンジする子」②及び「学びをアウトプットし、共に高め合う子」③がお「よりよい学校・学級のために考え、選択・決定し実践する子」として児童、教職員、家庭・地域が連携して学校づくりを進めていく。

令和3年度より、国語科を中心として研究を進めてきた。これまでの成果として、単元構想シートで設定した言語活動は児童にとって魅力的なものにし、単元の初めにゴールとして児童に提示することで、児童の「～したい」意欲に繋がった。また、昨年度から始めた「ちょいすぐ授業」では、児童自身が学習内容や学習形態を選択し自己調整しながら学習を進めてきた。その結果、理解に時間のかかっていた児童の不安感が減少したり、理解の速い子が学びを周りに伝えることでさらに学びを深めたりすることに繋がった。

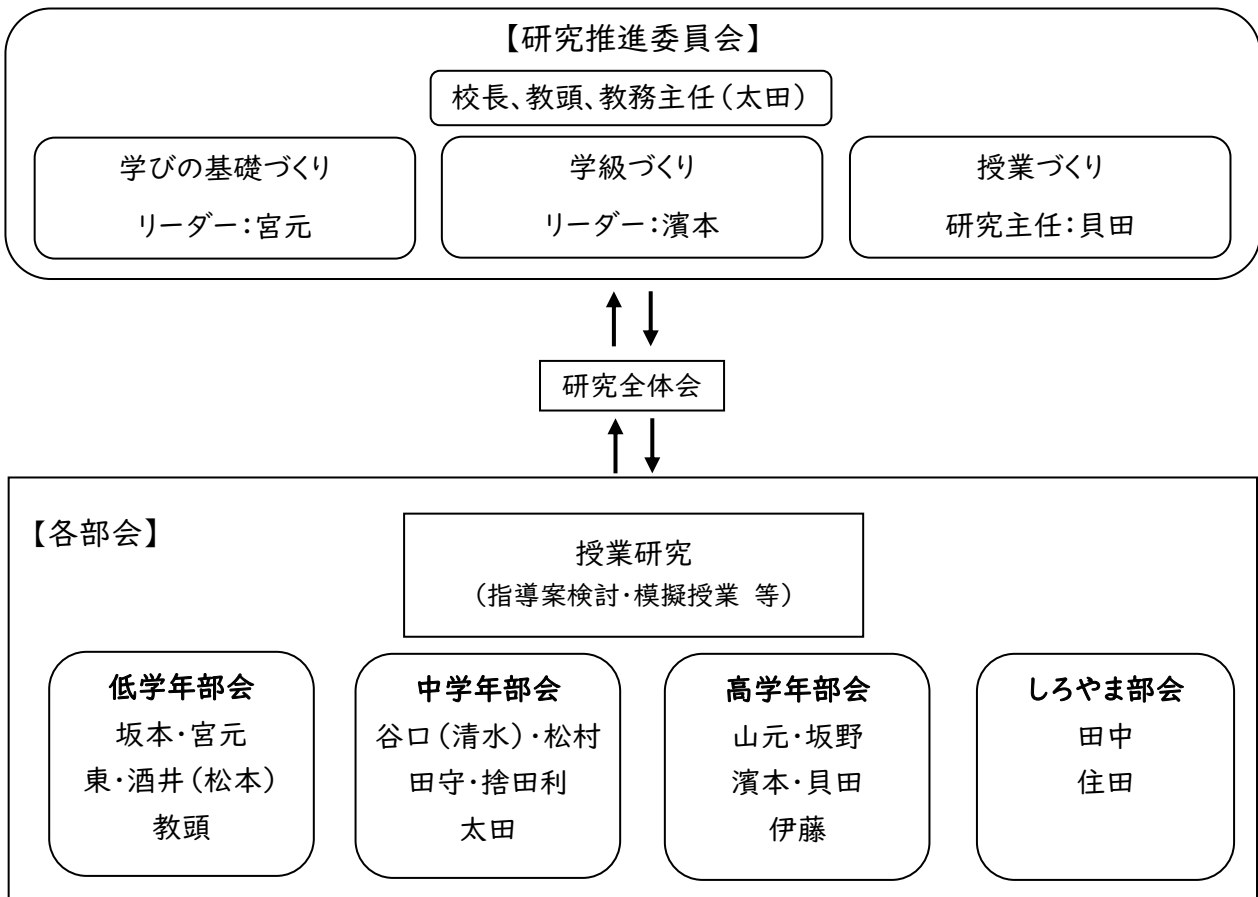
しかし、授業への意欲は高まってはいるものの、それが日常生活につながっていないこと、「ちょいすぐ授業」で本当に付けたい力がついているのかななどの疑問が残った。また、児童・職員のアンケート結果からも、「児童は達成感が得られていない」「児童の主体的に発信する力が足りない」などの課題が明確になった。

そこで、今年度は3年間の研究をさらに発展させ、国語科を中心に授業改善に取り組む。学びの基盤づくりとして主体性の素地を養うとともに、基礎的基本的な知識・技能を高める。そして、授業の中で、児童が学びを深め、達成感・成就感を得られるよう、個別最適な学びと協働的な学びの往還を目指し、研究に取り組んでいく。

4 研究の取組と検証内容・方法

重点		取組	検証内容	検証方法	検証結果 ☆☆☆☆☆	
I 個別最適な学びと協働的な学びを充実させた授業づくり		A 授業	主体的に取り組んでいるか	主体的チェックシート		
		B 学び合いカードを用いた話し方指導	対話力が身に付いているか	対話力チェックシート		
		C ちょいすぐ授業	取り入れる場面の設定が効果的か	教員の振り返り 児童・教員アンケート		
		D 評価テスト	付きたい力が付いたか	国語の評価テストにおける平均点		
II 学びや成長を実感する場面の充実		E 振り返りの設定	学びや成長を実感しているか	児童アンケート 児童の振り返り		
		F 基準を明確にした確かな見取り・手立て	授業のねらいが達成できているか	成果物 児童の学習の足跡 児童の振り返り		
III 学びの基盤づくり	互いを認め合い共感的な人間関係の学級づくり		G 朝のペアトーク	対話力が身に付いているか	児童・教員アンケート	
	学びの基礎基本づくり	1. 学力を支える取組	H 今江検定	本校の課題となる既習が身に付いているか	合格の達成率	
			I スイッチオン	既習の漢字が身に付いているか	漢字50問テストにおける平均点	
			J Qubena	既習が身に付いているか	Qubenaの活用率	
	2. 語彙を豊かにするための取組	K 言葉の宝箱	使える語彙が豊富になったか	言葉の宝箱カードの活用率		
		L 学習用語	用語を理解しているか	小テストの達成率		
		M 読書の充実	読書に親しんでいるか	マイスターの達成率		
	3. 家庭学習の充実・自学の質の向上	N 自学交流会 校長グランプリ 高学年からの「けテぶれ」	自学の質が向上しているか	校長・教員の見取り		
	主体性の素地づくり		O ほめたつBOOK	自己肯定感が高まったか。	児童アンケート	
			P 縦割り活動	主体的な態度で参加しているか	児童の計画シート・振り返り 児童・教員アンケート	

5 研究組織



○研究推進委員会

各部から出た案を研究推進実践のため協議し、原案作りをする。

教育委員会等との連絡・調整を行う。

・学びの基礎づくり

学力を支える取組や語彙を支える取組、家庭学習の充実に向けての取組について案を出し、検討する。

・学級づくり

互いを認め合い共感的な人間関係づくりが行われるよう、取組を協議し、提案する。

・授業づくり

授業力向上のための取組を協議し、提案する。

○研究全体会

・研究の進め方について共通理解を図り、研究の方向性を決定する。

・模擬授業や指導案検討、授業整理会を行う。整理会では、共通実践する内容を設定し、その後全教員で取り組む。

○各分会

・教材研究、指導案の検討をする。

・実践状況を交流し、研究推進に取り組む。

・研究授業後、授業者は成果と課題をま

6 研究方法

- ①研究推進委員が中心となり、各部会との連携を図りながら研究実践を進める。
- ②研究全体会では、研究授業などについてワークショップ型整理会などを行い、共通理解を図りながら進めていく。
- ③授業研究を中心に実践を進めていく。

教材分析 ⇒ 指導案検討 ⇒ (模擬授業) ⇒ (先行授業) ⇒ 研究授業 ⇒ 授業整理会

- ④1人1研究授業(全体研究授業または部会授業)を行い、教材研究力・授業力向上に努める。